マルクス主義者よ、聞け!

なである 種々の分派、大学のマルクス主義及び社会主義の諸クラブの中に同 とファシズムに反対する青年(YAWF)等については言わずもが じ糞を臭う。トロッキストのグループ、国際社会主義クラブ、戦争 あるに過ぎない。誰でも、SDS(民主社会のための学生運動)の 労働党(PLP)が唯一の例なのではなく、それが単に最悪の例で が再び、そして以前よりも一層俗化された形式で戻ってきた。進歩 リアート独裁」等に関する糞のたぐい―が再来しつつある。すべて 働者階級の任務」、「訓練された幹部」、「前衛党」、「プロレタ 『マルクス主義者よ、聞け!についての議論』の章参照)、「労 九三〇年代の長半博打のあらゆる負けた采の目―「階級ライン」

た唯一の生き生きした力は、ドラマチックな坐り込みストライキ、 って麻痺させられていた。資本主義の壁を乱打しているように思え の経済危機、歴史上もっとも深刻な、もっとも長期の経済危機によ 九三〇年代には、少なくともそれは理解できた。 合衆国は長期クロニック

彼の根っ子は合衆国の現代の現実とは量的に異なるまでかけ離れた 肩する程の幻想、もっともとっぴな科学的フィクションのように思 た少年にとっては、サイバネイションの概念は宇宙旅行の考えと比 までの「犠牲」と「過渡期」を課した。一九三七年に十八才であっ 中で、 われたであろう。その十八才の少年が今や五○才に達した、そして た、そしてその時代では社会主義の達成は物質的豊富の経済へ到る 事を」であった―貧窮によって重荷を負わされた時代の叫びであっ ていたであろう時代であった。その当時の叫びは「戦争ではなく仕 れは、「戦争ではなく恋愛をせよ」と叫ぶ者は誰でも変人と看なされ 市民軍隊列と強く提携し得た。それは三〇年昔のことであった。そ ラジカルなセクトはマドリードやバルセロナにおけるセクト自身の 気によって充電された、そしてその時、アメリカの左翼のあらゆ 労働組合会議)の大きな組織的攻勢であった。政治的空気は全世界 ラジカルな戦斗性、警察との流血の衝突等を伴ったCIO 階級的労働者革命の最後のものであるスペイン市民戦争の電 3

「幹部」、組織形態等に戻ることを求められつつある。ずうしくも無視して、あの遠い過去の「階級ライン」、「戦略」、になった。そして今や我々は、新しく生じた諸問題や可能性をずうはかすかに予期され得るのみであったところの益々成層化した形態時代に着いている。資本主義自身がその時以来変化し、三〇年前に

脳に悪夢のように重くのしかかっている。人間が自身と現状の革命 的な精神を喚起しようと努めた。彼は『ルイ・ボナパルトのブリュ 彼の絶えざる名誉になったことだが、彼の時代にその事を行なおう 七九五年に至る伝統と、それぞれをパロディ化することぐらいのこ 命はローマ共和国とローマ帝国の衣装をかわるがわる身につけ、 の亡霊から名前や戦斗スローガンや衣装等を借りる。かくてルッタ らに奉仕させるべく心細げに過去の亡霊を呼び戻し、世界史の新し ちょうどその時、まさにかような革命的危機の画期点で、人間は自 化、未だかってあらざりしものの創造等に従事しているかに思える と試みた―彼は一八四〇年代と一八五〇年代の革命運動に未来主義 くものではなく、生れくるものから学び始めるのか。マルクスは、 ある、という時に一体全体何ということだ。我々はいつ、死んで行 としか知らなかった。…………。十九世紀の社会革命はその詩を 八四八年の革命は、順番に、一七八九年、そして一七九三年から一 我々が過去ではなく、未来の方へ向く運動をまさに創り出しつつ 場面をこの由緒ある変装や借物の言葉で演じるために、この過去 メル十八日』で書いた。「すべての死んだ世代の伝統が生きた頭 は使徒パウロの仮面を被り、一七八九年から一八一四年までの革 過去に関するあらゆる迷信を脱ぎ捨ててしまわないうちは、 ただ未来からのみ引き出すことができる。それ

成々がたしまむに接近しつのちらかし、引通によったいた。 過去には文句が内容を超えていた、今は内容が文句を超えるために、十九世紀の革命は死者をして死者をほうむらしめねばなる。」

る時代に、 階級を分解するプロセスに入っている時代に、我々は空疎な「階級ルジョア社会が、かってはそれに安定性を与えていたあらゆる社会 **な革命が、単に「社会問題」の形を変えただけであり、支配と位階的「社会問題」を最終的に解決できる我々の時代の完全な、全面的** 命、一九一八年—一九二〇年の国内戦争と、つぎつぎとパロディ化 者をほうむろうと努めた人であるマルクスの名を冠せられて 崩壊の時期に入りつつある時代に、我々は空疎な「政党」及び「労 分的な、不完全な、一面的な革命の伝統を受け継ぐことになる。プ 制の一システムを他のシステムで置き代えただけであった過去の部 することぐらいしかできない。貧窮と支配と位階制から生れた歴史 シェヴィキ党、「プロレタリアート独裁」、清教徒的道徳、さらに 回っている。それ故、我々の時代の革命は、「階級ライン」、ボル があるか。今再び死者が我々の真只中を―皮肉にも、十九世紀の死 働者国家」等の要求を聞く。かように位階制が疑問に供され 「ソヴィエト権力」のスローガンさえ携えて、一九一七年の十月革 リア独裁」等の要求を聞く。 ライン」の要求を聞く。位階制社会のあらゆる政治的制度が深刻な らせられた時代に、我々は空疎な「中央集権的運動」や「プロレタ 々が二一世紀に接近しつつある今日、 中央集権化と国家が歴史的否定の最大の爆発点に持ち来た 我々は空疎な「幹部」や「前衛」や「指導者」等の要求 問題に何か異ったところ つつあ 步 3

て、新しい諸形式で再現する。 で、新しい諸形式で再現する。 で、新しい諸形式で再現する。 で、新しい諸形式で再現する。

げるために自身のスローガンをシニカルに貼り付けるような運動との支部であるドッジ革命的労働組合運動)のピケの写真に効果を上彼等がDRUM(デトロイトに基礎を置く革命的黒人労働者の同盟今日PLPにとどまる人々の多数はそれを受けるに値する。もし

我々は、 ある。 からではなく、それが十分に空想的、あるいは革命的でないが故に 兄弟姉妹として話しかけ、 主義に手を出す気になる人達に関心をもつ。これらの人達に我々は し、マ ここでの我々の関心は、理路整然とした社会見解及び革命の効果で梅毒に対しては、唯一の処置―議論ではなく、抗生物質―がある。 とで、彼等は今日のラジカルな青年運動の梅毒となっている。そし たりするのは、逆転したマッカーシイ主義の一形態である。スターらの者達が自分達を赤と呼んだり、自分達への攻撃を赤狩りと述べ 況に寄生することが―例えもしこの事が行動自体の敗北を意味す の人間におとしめるような「見事」ときよくないの人間におとしめるような「見事」ときましたの、プログラムされた(作動順序計画表を与えられた)機械仕掛スの、プログラムされた(作動順序計画表を与えられた)機械仕掛 マルクス主義は我々の時代に適合できなくなった、と信じてい あるいはト 的な戦略を熱心に追求するが故に、マルクス主義、レーニン主義、 リン主義についてのト としても一できるならば、その時、 単に彼等の党の勢力拡張を促進するために事実上あらゆる行動や情 ら借りてきた政治技術)を用いることができるならば、もし彼等が くなる政治技術(ブルジョア企業の管理操作と議会政治の汚水留か ば、もし彼等が他の諸組織を操作するために、もっとも胸くその 入間におとしめるような「規律」を受け入れることができるならの、プログラムされた(作重川戸ョロー 我々はまた、マルクス主義イデオロギーの理論的蓄積に畏敬 ルクス主義よりももっと体系的な代替物が無いのでマルクス マル マルクス主義があまりにも空想的、 ロッキー主義等に頼ってきた正直な革命家達についてで クス主義が貧窮の ロッ 真剣な議論と包括的な再評価を求める。 +1 時代の産物であり、 の実のある記述の言い直しをするこ 自分達への攻撃を赤狩りと述べ彼等は軽蔑にも値しない。これ あるいは革命的である その時 る。 3

よって、 我は、 よい、 ある、 題はマルクス主義を「放棄」したり、あるいは「無効」にしたりす 特に産業資本主義の批判にはすばらしさを発揮した、 ス主義を弁証法的に超えることである、と主張する。我々は、マル ンキ主義の戦術と組織様式等を超えたのとちょうど同じく、 ることではなく、マルクスがヘーゲル哲学、リカード経済学、 た新しい時代が生れている、 そのアウトラインをただ部分的に、一面的に予期し得ただけであ 及びマルクス主義が十分に包含することができず、マルクス主義が と主張する。これらの新しい諸様式は呼びたいように呼べば 以下の諸ページで明らかになるだろう多くの争い難い理由に もし欲するなら、「マルクス主義」とさえ呼んでもよい。 この新しいアプロー チを貧窮―後アナキズムと呼ぶように ということを信じている。我々は、 ということ、 7 ブラ ルク 我

マルクス主義の歴史的限界

電力の利用を含む工業技術の時代によって制約された一人の男の不からなおも多くを学び得るならば、我々は、物質的貧窮とたかだかからなおも多くを学び得るならば、我々は、物質的貧窮とたかだか一人の男が、資本主義の全弁証法を「予見」し得た、という考えは彼の最大の理論的貢献が一八四○年と一八八○年の間になされた

視して、マルクス主義体系が過去のすばらしい解釈を提供する、と 純然たる神秘化である。今なおこれが今日のマルクス主義の評釈の よって、あるいはまた聖なる言語マルクス主義に「新」を付け加え ではない。もしマルクス主義体系のあらゆる実践的結論が、 うことを一度として認識することをしないで、挙げる。不可避的な はけっして存在しなかった質的に新しい諸問題が生じてきた、とい こと、さらに過去の諸革命についてのマルクスの分析のすばらしさ 本論』の経済的洞察は産業資本主義の発展を規定している、 と階級分析が歴史の解釈にうまく適合する、 際して恐ろしい程誤りに導くマルクス主義体系の諸特徴を故意に無 正確な事態である。マルクス主義者達は、現在と未来を取り扱うに ることによって、マルクス主義の血統を保護しようとする試みは、 諸結果と全然矛盾するならば、体系に対して方法を強調することに の限界を乗り超えるために発展させられねばならないとかいうこと 貧窮に完全に基づいた歴史的諸問題及び階級分析の諸方法が潜在的 や彼が確立した戦術的諸結論のすばらしさ等を、マルクスの時代に いう事実にあぐらをかいている。マルクス主義者達は、史的唯物論 ということ、及び『資 現実の という

バネイション等に基づいた時代に移行され得る、と考えられるか。の蓄積が、根底的に新しいエネルギー源、エレクトロニクス、サイ産業の工業技術的基礎を構成していた時代に公式化された戦略戦術ステムの資本主議に移行され得る、と考えられるか。石炭と鉄鋼がヌと独占が経済を操作するために組み合わさっている管理されたシ家と独占が経済を操作するために組み合わさっている管理されたシ家と独占が経済を操作するために組み合わさっている管理されたシ皇宮の新しい時代に移殖され得る、と考えられるか。「自由競争」

.

(注)マルクス主義は何にもまして実践の理論、あるいはこの関係(注)マルクス主義は何にもまして実践の理論の実践である。を正しい展望のもとに位置づけること、つまり理論の実践である。たころである。もし理論と実践が分離するようになるなら、マルクス主義は殺されるのではなく、それは自殺をとげることになる。これはマルクス主義のもっともすばらしい、貴重な特徴である。校これはマルクス主義のもっともすばらしい、貴重な特徴である。校これはマルクス主義のもっともすばらしい、貴重な特徴である。校これはマルクス主義のもっともすばらしい、貴重な特徴である。校これはマルクス主義のもっともすばらしい、貴重な特徴である。校にマルクスの後を追うクレチン病患者の試みは、マルクスの名が対する品の悪い侮辱であり、マルクスが表わしたすべてのもの前に対する胸くそ悪くなる汚染である。

る)狂人拘束服に変った。我々は、革命的変化の「力」としての労日(それに合った内容を失って、新しい現実に対処する者達に対すこの移行の結果として、一世紀前には解放的であった理論体が今

情が物質的豊富という条件下での生活の凡庸によって起っている時い「過渡期」―を受け入れることを要求される。我々は、革命的感 のみならず、何にも増して豊富の工業技術の発展であるところの長 かわらず、要求される。我々は、豊富の工業技術が手近にある時に、 ないかなる危機も三○年間起りそうでなかった、という事実にもか 機」というヴィジョンによって我々の戦術を導くことを、そのよう 命家をつくり出している時に要求される。我々は、「長期の経済危 働者階級に焦点を合わすことを、資本主義が明らかにそれとは反対 中に投げ込まれつつある時に、要求される。 制度が崩壊しつつある時に、位階制社会の歴史上未だかってけっし 的」位階制やエリート、新国家等を確立することを、かような政治 づけることを要求される。我々は、政党、中央集権的組織、 に、我々の「戦略」や「戦術」を貧困や物質的悲惨化の周囲に位置 「プロレタリアート独裁」―その機能が単に反革命家の鎮圧である に作用し、事実上社会のあらゆる階層の間に、特に青年の間に、革 て起らなかった規模で中央集権化、エリート主義、国家等が疑問 革命

事実にもかかわらず、極めて僅かしか語らない。について、この概念がマルクス経済理論の焦点を形成する、というについて、この概念がマルクス経済理論の焦点を形成する、という

される。我々は、理論的にのみならず、社会自身のまさに発展によやっと脱した時代の減殺的先入見に無理に押し込めること等を要求ること、我々の時代のぴくぴく震える現実をその希望や約束と伴に我々は、簡単に述べれば、過去へ戻ること、成長ではなく退化す

**、静止していたわけではなかったし、かつまた歴史は、その锖申来、静止していたわけではなかったし、かつまた歴史は、その锖中歴史は「マルクス、エンゲルス、レーニン、トロッキーが死んで以 がなおも十九世紀あるいは二〇世紀の開闢期に根づいていた思想家 ためになおも斗争しているが としては骨抜きにされてきた―とはいえブルジョア的枠内で、賃上てきたことを知っている。我々は、労働者階級が「革命的変化の力」など、した、つまり必要なところではどこでも経済を国家と合同し を遂行してきたことを知っている。我々は、資本主義が所有を「国 達―たとえ彼等がいかにすばらしかろうとも―によって作られた単 ってもまた超えられてきた原理に従って活動することを要求される。 それは、生活への彼等の展望が貧窮、(宗教的)罪、断念、労働倫 本主義諸国内の革命斗争は歴史的に新しい地平に移ってしまった― 加わることによって益々減殺的運命に遇ってしまった。発展した資 階級斗争は消滅してしまっていない―それは、選出され資本主義に ためになおも斗争しているが―ことを知っている。古典的意味でのげ、労働時間短縮、(住宅、健康保険、病休等の)「特別」手当等の 義的と考えられる仕事の多く(豊富の工業技術の発展を含んでいる) ラル、社会民主主義者、 を守ったブルジョアジーや国家装置のみならず、その支持者をリベ 青年の世代の間での斗争になってしまった。我々の敵は、堅固に身 持ったいかなる長期の経済危機及び文化、価値、制度等も知らない 方向に従って動いてこなかった。我々は、資本主義自体が社会主 れる労働者等々の間に見出すところの見解ででもある。要点は、 「革命的」政党、そしてマルクス主義の侍者達には苦痛なことだ 工場位階制、産業的千篇一律の労働、労働倫理等によって支配 物的安定の追求等によって形づくられた古い、保守的な世代の 堕落したマス=メディアのちょう児、過去 かつまた歴史は、その精神

を生み出している、ということである。クス主義者の誰一人として予見することのできなかった一連の問題クス主義者の誰一人として予見することのできなかった一連の問題分裂が今や事実上あらゆる伝統的階級境界線を横断している、とい

プロレタリアートの神話

運動によって、人間は諸段階を経て人間による自然の支配及び人間社会―に至る巨大な運動をあらわにした。マルクスに従えば、この 題の理論的根底に切り迫ろう。 成する社会システム―の弁証法を調べる。ここで、マルクスは現代 本主義それ自身-による社会支配に進む。この大きな弁証法の内部で、 層高度の形態の共産主義―解放的工業技術に支えられるコミューン スは原始共産主義から私有財産制を経て(原始共産主義よりも)一 マルクスのもっとも偉大な貢献は社会発展の弁証法である。 関係の分析において)が、それだけではなくマルクスは我々の時代 の革命思想に対する深い貢献をしている(特に彼のすばらしい商品 では非常に限られた役割しか果さない時間と場所の限界を露呈して 我々は過去のすべてのイデオロギー的がらくた物を脱ぎ捨て、 人間による人間の支配の最後の歴史「段階」を構 我々の時代にとって、革命思想への マルクスは資 マルク

受け入れない。この問題の議論については、『生態学と革命思想』き継がれた単純な意味での「人間による自然の支配」という概念を(注)生態的理由のため、我々は、一世紀前にマルクスによって引

を参照されたい。

は、プロレタリアートが、工場システムによって「訓練され、統一 は教えられる。もしブルジョアジーが、封建社会を打倒するずっと 会に両階級を敵対させる革命的社会的利益―を発展させる、と我々 級は、それぞれの社会的利益—実際、両階級が産み落された古い社 代プロレタリアートは資本主義内部で発展した、と指摘する。両階 内部で発展したのと全く同様に、産業技術の発展の結果として、 は手工業と農業の分裂)の結果として、ブルジョアジーが封建主義 である。したがって、マルクスは、都市と農村の分裂(一層正確に ジーによって論証された、ということを強調することが極めて重要 移行―つまり、一階級社会からもう一つの階級社会への、所有の一クスの試みから生じている。この説明が封建主義から資本主義へのクスの試みから資本主義への 古い社会が新たな社会に置き換えられる。このように我々は教えら ムとは両立し難くなる。「外被はずたずたに引き裂かれている。」 システムからもう一つのシステムへの移行―とのほぼ完全なアナロ これらの限界のうちでもっとも深いものは、資本主義から社会主 両方の場合とも、生産力の発展は伝統的な社会関係のシステ 組織される」という事実によって、自らの革命的権力を獲得 経済生活を支配する力を獲得していたのであるならば、今度 階級社会から無階級社会への移行を説明しようとするマル 現

主義者達は、実際的には、アナルコ=サンジカリストの立場、つま(注)プロレタリアートの「経済的支配力」について語るマルクス

りマルクスが厳しく反対した立場を反復している、ということは皮肉なことである。マルクスはプロレタリアートの「経済的支配力」に関心を持たず、その政治的支配力―とりわけ、プロレタリアートが国民の多数派になるだろう、という事実―に関心を持った。マルクスは、産業労働者が資本主義的蓄積の傾向から当然結果として生れる物質的生活困難によって主として革命に駆りたてられるだろう、とでは)選挙で十分権力の座につき、社会主義を立法で実現させることができるかも知れない、と確信していた。多くのマルクス主義者は、その特質を示すかのように、マルクスとエンゲルスに対して不正直であった。それはPLP(進歩労働党)が『挑戦』の読者に対しているのと同様である。つまり、彼等は未翻訳の重要な著作をかえりみなかったり、マルクスの意味することを恐しく歪曲してきた。

予測できなかったか、明白な事実として決して直面することのなか、時間題である。封建主義下のブルジョアジーの発展とマルクスがの時間題である。封建主義下のブルジョアジーの発展とマルクスがのの階級社会への移行を説明し得るか。これは論理的抽象の手品から無階級社会への移行を説明する同じ弁証法でもって、階級社会一つの階級社会への移行を説明する同じ弁証法でもって、階級社会がらもう

アートの発展の中に歴史の弁証法を打ち建てた。プロレタリアートアートを定義したことは事実であるが、マルクスはまたプロレタリのには好都合の個所である。マルクスがこれらの言葉でプロレタリは誰でも「プロレタリア」である、という概念に始末をつけておくは)これは、自らの労働力以外に売るべきものを何も持たない者(注)これは、自らの労働力以外に売るべきものを何も持たない者

て挙げた。 て挙げた。 で挙げた。 で挙げた。

で、一層あらそい難い根拠を求めるには、この事実で十分であるとで、一層あらそい難い根拠を求めるには、この事実で十分であるととが、一層あらそい難い根拠を求めるには、この事実で十分であるとかり下げと労働者の絶対的貧困化に導く。プロレタリアートは従って反逆せざるを得ない。何故なら、資本の競争と集中化の過程が進て反逆せざるを得ない。何故なら、資本の競争と集中化の過程が進て反逆せざるを得ない。何故なら、資本の競争と集中化の過程が進て反逆せざるを得ない。何故なら、資本の競争と集中化の過程が進て反逆せざるを得ない。何故なら、資本の競争と集中化の過程が進て反逆せざるを得ない。何故なら、資本の競争と集中化の過程が進行するにつれて「莫大な貧困と圧制と隷属と退廃が充満してくる」からである。

の産業本拠地(もっとも盛んなところ)、すなわち、無階級社会へしである。先ず第一に、この理論的曲芸は、何故貧困化が資本主義下で述べようとする試み(マルクスもそうした)は、全くのごまか(注)マルクスの貧困化理論を一国的条件下ではなく、国際的条件

なかったのか、という疑問を回避しようと努めるだけの 的手段を持っている。一つの脅威が歴史の地平線上に潜んでいる 盟国ロシアは未開発世界を爆撃して服従させるためのあらゆる技術 に押しつけるならば、この立場は極めて現実的な危険―ジェノサイ もし我々が我々の希望を「プロレタリアー の工業技術的に適した出立点を形成する唯一の活舞台の内部で起ら 兵器を背負った虎であり、いかなる文化的抑止力も欠如しているア ナチ型の真のファシズム帝国への合衆国の発展である。 「張り子の虎」であると言うのは、全く馬鹿げている。それは熱核 ている。 リカの支配階級は、 (皆殺し)―をおおい隠すことになる。アメリカとその最近の同 ドイツよりもさらに邪悪になる可能性さえ持 ト」としての植民地世界 アメリカを もの である。

資本主義はその発展をもっぱら競争の相互作用と市場の作用力にま 家の補助を受けた独占形態を再びとる、 資本主義がより高度の発展レベルでその重商主義的起源に戻り、 らに前進しもする、ということ、 独占体から高度に競争的な産業諸単位へ―発展するのみならず、さ 主義から彼の時代の支配的な産業形態へ―国家の補助を受けた貿易 ことを期待されるはずがなかった。彼はまた、 の集中と工業技術の発展に対する彼の洞察の十分な結果を把握する たわけではない。十九世紀の中葉に書いたので、マルクスは、資本 を期待されるはずがなかった。 かせておかないで、 しかしながら、 資本主義はマルクスの時代からずっと静止してい その発展を「計画」 経済は国家と合体する傾向があり、 すなわち、 ということを予見すること し始めている。 資本の集中とともに、 資本主義が単に重商 明らかに、

> ることが明らかになっている。 級に発育しないで、ブルジョア社会という身体の一器官になってい 言うべきである。プロレタリアートは資本主義の子宮内で革命的階 主義であることが明らかになっているのは、信じ難い歴史の皮肉と のはロシアである。マルクス主義的「社会主義」は、大部分、マル ス主義は、事実、 階級闘争は完全にブルジョア的次元内部にとどまっている。マルク 統的階級闘争は階級戦争に発展することができないでいる。伝統的 富を用いて、伝統的階級闘争をシステム内に包摂しようとしている もっとも戦略的な部分を同化吸収せんがために、莫大な工業技術的 現システムは伝統的階級闘争を撤廃するのではなく、 クスが資本主義の弁証法において予測できなかったまさに国家資本 した形態の国家資本主義運動によって同化吸収されている―顕著な このように、貧困化理論の刃は鈍らされ、合衆国においては、伝 イデオロギーになっている。それはもっとも発展 労働者階級 0

(注)レーニンはこの事を意識し、「社会主義」を「全人民に利益 が」(レーニン『さし迫る破局、それとどう闘うべきか』)として が」(レーニン『さし迫る破局、それとどう闘うべきか』)として を与えるためにつくられた国家資本主義的独占以外の何ものでもな を与えるためにつくられた国家資本主義的独占以外の何ものでもな を与えるためにつくられた国家資本主義的独占以外の何ものでもな を与えるためにつくられた国家資本主義の独占以外の何ものでもな を与えるためにつくられた国家資本主義の独占以外の何ものでもな として

命は、伝統的階級の分解から、実際、そのまさに本質が、それが非、的階級間の矛盾衝突から生れ得るのか、それともこのような社会革わち、無階級社会の実現を追求する社会革命は、階級社会内の伝統我々が今日問わなければならない問題は、次のことである。すな

文化的前成をなしている。 事実上、貧窮―後社会に移行する貧窮社会の運動の未熟な、 超える社会発展の傾向を反映している。これらサブカルチュアは、 らサブカルチュア(新培体)は貧窮社会という経済的カテゴリ が非資本主義的形態の関係に似ているところの完全に新しいサブカ が諸階級に分化したのとちょうど同様に、我々の時代にも、諸階級 りてきたモデルからよりも、より多くを学び得る。原始的血縁氏族 よって、マルクスが封建社会から資本主義社会への歴史経過から借 体としての人間社会について展開した一層広い弁証法に戻ることに とである。この問題に答えようとする場合、我々は、マルクスが全 階級である、ということであるところの完全に新しい「階級」、つ まり革命家の増々成長する階層の出現から生れ得るのか、というこ (新培体)は厳密にはもはや経済的グループではない。事実、これ チュア(新培体)に分解する傾向がある。これらサブカルチュア 曖昧な うを

闘争は、資本主義社会の幣害(賃金、労働時間、インフレ、雇用等 ではなく、現行社会の生理として現われている。事実、伝統的階級内実を失いつつある、ということである。それは産みの陣痛として生み出す矛盾衝突を除去し得る。要点は、伝統的階級闘争が革命的 級闘争も消滅していない。社会革命のみが現行の階級構造とそれが 伝統的階級は消滅していないし、かつまた、その事と関係して、階 口 々における幣害)を「補正する」ことによって、資本主義社会を安 セス」という語は、ここでは強調されねばならない。なぜなら、 階級分解のプロセスはその全次元で理解されねばならない。「プ 「独占体」を構成しており、新重商主義的な成層社会の経

資本主義社会内の労働組合は、産業独占体に対して、

10

てみよう。 は―労働者を「階級意識的」にすること。旧左翼からもっともネア に他の誰よりも「優先的に」労働者を改宗させるだろう。その目的 ンデルタール人的見本を挙げると、彼は長髪を切り、 あるいは良くて、 つまりマルクス主義的アプローチと革命的アプローチを比較し 横柄な態度を身につけている。 は具体的には何を意味して ツシャツで身づくろいし、酒、タバコを止め、 マルクス主義的教条は我々を労働者に接近させるだろう 「粗野な」常習的癖を気取り、 我々を工場に「入れる」だろう一そして、 いるのか。我々は二つのアプロ ユーモアのない ありきたりの ありきたりに 、無表 我 A

組合の官僚、 アメリカの労働者に投映している。実際には、このイメージは労働 (注) この点で、旧左翼は自らのネアンデルター あるいはスターリニストの政治委員の性格により酷似 ル 人的イメージを

位階制への労働者の敬意を、党位階制と労働者を結ばせるために用 党環境に労働者を服従させるために用いようと努める。 横たわっている。彼は、工場環境によって植え付けられた規律を、 る。学生の「労働者」へのこの変身の裏には、邪悪なシニシズム のイミテーションである限りは、彼は労働者のイミテーショ ではなく、ブルジョア的堕落をするのである。労働者が自らの主人ろの者になるのである。つまり、彼は確かに「プチ=ブル」的堕落 ようと努める。 要するに、彼は、 もし成功すれば、 労働者がマンガ化された最悪の状態にあるとこ 単に一つの位階制の他のもう 彼は、産業 ンにな が

> 少なかれ矛盾衝突はある、がしかし、全体的には、労働組合は現シ 済に一身分階級として吸収されている。この身分階級内で、多か ステムを強化し、それを永続化するのに奉仕している。

性に向って展開される。伝統的階級闘争の革命的内実は、その理論 その最深部でいやされ始めるに従って、階級分解のプロセスは全体がめられた精神であった。病いがその終りに近づくに従って、傷が 徹底的に反動的である。マルクス主義の教条主義者は幾度となく次時代の新しい革命運動を「労働者炎症病」で感染させること等は、 威主義的養育法、宗教の影響力、 の分解のプロセスは伝統的階級闘争のみならず、 的構成体としての意義及びその社会的現実としての意義を失う。こ は抑圧、すなわち、人間の莫大な血のしたたり、人間の恐ろしくゆ この病いの副産物が工業技術の発展であったならば、病い ようと努めた一面的な人間の発展の歴史である、ということ。もし であり、人類同胞を支配することによって、自然の支配力を獲得し の歴史であり、有名な「社会問題」によって切り裂かれた傷の歴史 のことを思い出さねばならない。すなわち、階級闘争の歴史は病い 争に負わせることによって伝統的階級闘争を補強すること、我々 てこの階級構造を補強すること、「革命的」内容を伝統的階級闘 「労働者階級の任務」についてべらべらしゃべりまくることによ 国家の諸制度、及び労苦や断念や 家父長制家族、権 の主産物 0

働運動の基礎工作をしてきていた数多くの「マルクス主義者」を傍 どいかなる抗議もなしに、労働組合官僚は、十年以上にも渡って労 こなわれたので、僅か一年か二年以内で、下部組合員からのほとん 十分狡猾になる。四○年代には、この事が極めてドラマチックにお 争においてずっとましな成果を得るだろう、ということを知る程に 僚制を通してよりも労働組合官僚制を通しての方が、日々の階級闘 装うことによって実現される。マルクス主義理論でさえ、この下落 に押しやることに成功し、旧CIO(旧産業別労働組合会議)の最 は何もない。)何だかんだ言っても、労働者はマルクス主義の党官 んどどの号でも見よ。この種の雑誌程労働者をうんざりさせるもの した労働者のイメージと調和して貶しめられる。(『挑戦』のほと プロセスは、労働者の経済的な日々の要求にかかわっているように の位階制による置換に導き得るにすぎないこの胸くその悪くなる

労働者は革命家というものになる―そのためには、労働者は単な高指導部の地位に着くことさえ成功した。 理解していた。がしかし彼は赤旗と相当の革命的饒舌に陰れて、 悩の種なのである。 ルジョア」というものである。労働者の「労働者性」は労働者が苦 公務員、知的専門職の人―さらにマルクス主義者―等に劣らず「ブ ルクス主義者―等にも言える。労働者は農民、学生、事務員、兵士 は農民、学生、事務員、兵士、 すればよい。この事は労働者のみに関することではない。 る労働者以上のものになる必要はなく、自らの「労働者性」を脱却 しんでいる病気、つまり個人的次元に折りたたみ込まれた社会的苦 態依然とした位階制を密輸入した。労働者は次の時に革命家と 1 ニンはこの事を『何をなすべきか』の中で 公務員、 知的専門職の人―さらにマ 同様の事

山猫ストを

労働者階級は、驚ろく程非革命的になり勝であった。 革命的動揺の絶えざる源になっていた。対照的に、安定した継代の 層から直接出てきていた所、つまりパリであった。これらの労働者 が農民層から直接引き抜かれていた所、つまりペトログラードやバ t が産業システムによって精神的に「プロレタリア化」されることが も革命的であった。そしてその過渡期には、「プロレタリアート」 める。一般的に言えば、「プロレタリアー (注) この意味では、 ・を提供したところの社会的に過渡的な人間のタイプに似かより始 セロナであったし、また労働者がなおも職人的であったり、 っとも少なかった。古典的労働者革命の偉大な集中点は、労働者 産業支配体制に順応するのが極めて困難であったし、 労働者は歴史にそのもっとも革 ト」は、過渡期にもっと マルクスとエ 命的な構成分 社会的 職人

> の背後に終始一貫して集まっていた。 まさに一九三三年(ヒットラー政権獲得の年)までは、 =ワイマール)共和国議会に選出した。そして彼等ドイツ労働者は 多数の官僚的社会民主主義者を労働者評議会議会に、後年には旧 挙げられたドイツ労働者階級の場合でさえも、 ンゲルスによって、ヨーロッパ・プロレタリアートのモデルとして 一九年のスパルタクス団を支持しなかった。彼らドイツ労働者は 大多数の労働者は一 社会民主党

になる時、

るとき、労働者が自らの階級的地位に今、ここで、嫌気がさすよう ものになり始める。つまり、労働者が自らの「労働者性」を脱却す

労働者が、マルクス主義者が労働者の精神内部でもっと

労働倫理、工場の規律から汲み取った性格構造

も称賛する諸特性―

を脱却し、非階級意識を達成する程にまでは、革命家になる。労働出し始める時、である。この意味では、労働者は、自らが階級地位

指導者への服従、消費主義、清教徒主義の残渣等々―をまさに洗い

けているこれら階級的手かせ足かせなのである。労働者は自らを消しつつあるものは、まさに労働者をあらゆる支配システムに縛りつ者は堕落する―しかも労働者はすばらしく堕落する。労働者が脱却

郊外生活、簿記的人生等に隷属させるこれら階級利益を放

絶えず数が増えながらつくり出されている。つまり、 絶えず数が増えながらつくり出されている。つまり、革命家が。こ況が生れる。分解する伝統的階級構造から、新しいタイプの人間が 文化の多様な側面に結びつく程度に従って、プロレタリアートは既 年労働者、職業訓練生、高校生等の生活スタイルがアナキィな青年 働者階級の貯蔵所におけるこの種のタイプの人間の出現である。青 さらに見込みのあることは職業訓練学校や高校、つまり次の産業労 やり、同僚の労働者にも敵対する、そんな青年労働者の出現である くの余暇時間を要求し、盗み、あらゆる職制を悩ませ、 にふらふら入ったり、出たり、長髪を伸ばし、多くの賃金よりも多 者の出現である―マリファナを吸い、仕事なんか糞くらえで、工場 のみならず、革命的生活様式が現存社会で可能である限りまで、こそのものに挑戦し始める。この革命家は社会革命の必要をかかげる の革命家は位階制社会の経済的、政治的諸前提のみならず、 づいた解放的無階級社会への変遷に面するときに、質的に新しい情 成秩序維持のための力から革命のための力に変化していくであろう 人間が物質的貧窮に基づいた抑圧的階級社会から物質的豊富に基 の工場において、 もっとも見込みのある発展は次のような若 位階制

取ってくるところの新しい解放の形態を創出しもする。 によってつくられた形態を攻撃するのみならず、その詩を未来から 革命的生活様式で生活しようと努める。この革命家は支配の遺産

580

的特徴でもあった。 社会秩序や生活のブルジョア的諸条件との労働者の断絶等を表明す 時、ほとんどすべての都市の労働者は「何が何んでも、ストライキ された」存在、階級的存在であることを拒絶する。このプロセスはとも意識的な表現は、「自己管理」の要求である―労働者は「管理 ードは、革命的変遷の実際の瞬間への力強い前兆である。そのもっすために要求される。労働者、学生、近隣の人々等のこの新しいム壊し、刻々と社会に挑戦し、ブルジョア的正常性のムードを打ち壊 トライキのためのストライキが千篇一律の日常仕事の化粧飾りを破イ」の―実際の活舞台となる。ストライキは長期的状態になり、ス 及び近隣は革命的「プレイ」の である。社会が革命期の門口に近づき始めるに従って、工場、学校、 習・服装・物腰、 習・服装・物腰、等々を腐食させる個人的な「行動のプロパガンダ」たる反抗であり、あらゆる支配的社会慣習、諸制度、特権階級の慣 サイド軸は勿論郊外において、展開されるだろう。その真髄は公然 場は勿論学校におい (注) この革命的生活スタイルは、街頭は勿論工場において、貯 九三六年革命前夜のスペインにおいてもっとも明白であった。 ための」ストライキを要求した―労働者の独立、 て、 ベイ・エアリア(港湾地域)-フランスの一九六八年のゼネ・ストの本質 ―非常に重要な核心を持った「プレ 労働者の覚醒、 スト 当

> 向けなくなりつつある世代一である。 の世代に非常に広まっている物質的安定という神話の方に益々顔を青年―いかなる長期の経済的危機も知っていないし、一九三〇年代 文字通り、社会の大多数であるだろう。その最前進した構成分子は 値、生活スタイル等の分解によって共通の革命的な力に融合され の伝統的階級から引き出され、現階級構造の諸制度、社会形態、価れでは、何が革命的転換の「力」になるだろうか。それは、すべて)、では、「何が革命的転換の「力」になるだろうか。それは、すべてれでは、何が革命的転換の「力」になるだろうか。それは、すべているのであるならば、この準備、この実験は必要不可欠である。そ 未来がもし階級社会の廃虚の上に建設された無階級社会を意味して 味しているとするならば、未来へのこの準備、社会関係の解放的、 もし未来が一階級社会の他のもう一つの階級社会による代替を意 後的形態の実験は幻想であるかも知れない。しかしながら、 3

革命は敗れる。この事は、三〇年代のスペインによってのみならず、に多くの労働者が勢力を集中して社会革命を支持しようとも、社会得ない。もし支配階級がその武装力を保持するならば、たとえいか軍隊)をそこから補充するところの青年の支持無しには、実現され軍隊)をそこから補充するところの青年の支持無しには、実現され 働者、技術者、農民、科学者、知的専門職の人等々、及び官僚でさ、体性のその追求によって―兵士及び労働者のみならず、兵士、労また鮮明に示されてきた。今日の革命は―その性質上、それにまた である。何にも増して、社会革命は、支配階級がその武装力(警察職の人等の支持無しには実現され得ない、ということも劣らず真実社会革命は能動的であれ、受動的であれ、農民、技術者、知的専門 支持無しには実現され得ない、ということが真実であるとすれば、 五〇年代のハンガリー及び六〇年代のチェコスロバキアによっても もし社会革命が能動的支持であれ、 受動的支持であれ、労働者

喰い込ませ、 級的地位」 獲得する。 革命は搾取、 単に一八六○年代や一九一七年の矛盾からだけではなく、 ア社会内のあらゆる矛盾から滋養を得ている。それ故、 級の、無所有の、 々もまた惹きつける。ここにおいて、 ステム等々によってその生活が、 ての人々を惹きつけるし、そう、 7 そこから補充されるところのまさにその世代をもまた味方に、、、、 家庭、学校、 に関わりなく、 過去の戦術ハ 貧困、 もっとも抵抗の少ない道をたどる。 無位階制の、そして全体的解放 スーパーマーケット、 人種主義、 ンドブックを放棄して、未来の革命は 国民のもっとも鋭敏な部分に革命の道を 帝国主義等の重荷を感じているすべ 消費主義、郊外生活、 欲求不満にされているすべての人 革命の形態がその内容 抑圧された性の現行のシ 未来の社会革 ―と同様に総体的 未来の社会 マスーメデ ブルジョ

理矢理入ることは、 る。 てべらべらしゃべることは、過去によって現在と未来を滅亡させる というに等しい。「幹部」 全くの反革命である。 「プロレタリアート独裁」等についてべらべらしゃべることによっ マルクス主義のすり切れた処方箋を持って、 死に ーニン主義がマルクス主義になした力強い貢献 かかっているイデオロギーを念入りに取繕うことは、 「階級ライン」や「労働者階級の任務」に 我々が今注意を向けねばならないのは、 「前衛党」 , 「民主的中央集権主義」 この革命 の発展に